

診療局：健康管理センター

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
健康管理センター長	南谷 かおり
非常勤医員	馬場谷 美知子
応援医師	南 千勢
保健師	張 鈺豊

—概要—

健康管理センターは、人間ドック、脳ドック、乳がん検診、その他各種健診業務、女性外来、保健指導等を行っている。

常勤医員1名(南谷医師)、非常勤医員1名(馬場谷医師)に加え、応援医師1名(南医師)、保健師1名にて業務を行っている。

人間ドックは完全予約制で月・水・金曜日、脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。特定健診、後期高齢者医療健診は火、木曜日の午前中、企業健診は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨密度測定検査は平日の午後、市民乳がん検診は日曜日に年8回(1回あたり28名)、乳がん検診セットは平日の午後に行っており、それぞれ予約制となっている。一般検診は平日の午前中に行っており、予約は不要である。

特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者には、当日中に人間ドックアドバイザーの資格をもつ保健師が保健指導を行い、生活習慣の改善によるメタボリックシンドローム発症予防をめざしている。

その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、関空の検疫所等の公務員の健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っている。

また最近の訪日外国人旅行者の増加に伴い、中国からの人間ドック受診希望の問い合わせが増加していたため、2015年度より外国人専用健診を開始した。通常の日本人向けのドックとは実施日、内容、価格を変更し、診察・検査には通訳が付き添っている。当センターの保健師が中国人であり、現在のところ、対応可能言語は中国語のみとなっているが、検査結果も日本語・中国語の両方で作成している。

—実績—

2016年度の健康管理センター利用件数は、延べ1,699件であった。

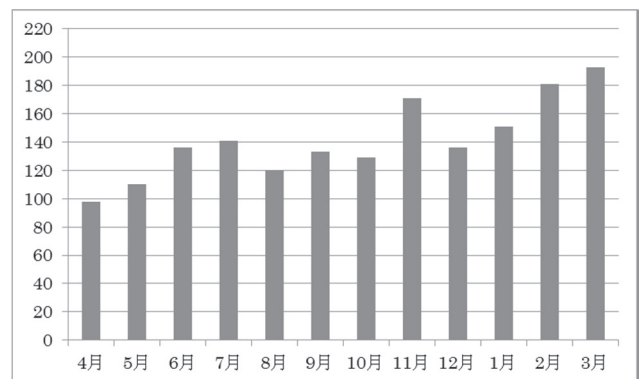
内訳として、人間ドックコース及び脳ドックコースの受診件数は合わせて847件で、さらに人間ドックコース受診者で

オプション検査として脳ドックを追加した件数は167件あった。

また、企業健診は136件、一般健診は103件、被爆者健診は32件、特定健診・後期高齢者医療健診は86件、特定健診保健指導は22件、市民乳がん検診は179件、骨密度測定は69件であった。

2016年度 健康管理センター利用件数

	件数
人間ドック・脳ドック	847
オプション脳ドック	167
企業健診	136
一般健診	103
被爆者健診	32
特定健診・後期高齢者健診	86
特定健診保健指導	22
市民乳がん検診	179
乳がん検診セット	12
骨密度測定	69
抗体検査	17
予防接種	9
女性外来	1
アミノインデックス	14
外国人専用健診	5
合 計	1,699



2016年度 月別健康管理センター利用件数

—今年度の成果と反省点—

人間ドック・脳ドックについては、昨年度は特に年度後半に申込者が増加したため、各検査科と相談・協力のうえ、事務的作業の効率化をはかることで受診可能人数を増やし、昨年度の778件から847件に増加させることができた。

また、オプション検査として、甲状腺エコー検査を追加した。

最近の乳がんへの関心の高まりから、乳がん検診に対する問い合わせが増加し、40歳以上という年齢制限や2年に1回という検査回数制限のために市民乳がん検診対象外となっている方からも受診希望があったため、新たにマンモグラフィと乳腺エコー検査を合わせた乳がん検診セットを作成し、11月より開始した。

2014年より開始した特定健診・後期高齢者医療健診は、昨年度の66件から86件へと年々利用件数が増加し、特定健診保健指導件数も昨年度の12件から22件へと増加した。

外国人専用健診については、ホームページなどでの広報活動も開始し、問い合わせが増加している。

しかし、眼科常勤医の不在が原因で、眼科診察が必要な一般健診受診件数は減少した。企業健診受診件数も減少しており、この原因については明らかではないが、他施設と比較して当院の健診価格がやや高めであることが関係している可能性がある。また、脳ドック受診件数が減少しているが、この原因については明らかではなく、今後の検討が必要と考える。

—来年度への抱負—

来年度初めに、健康管理センターがリニューアルして移設予定となっており、待合室、更衣室が広くなり、診察室が2部屋となるなど環境が整備されるので、外国人専用健診も含め、ドックや健診内容のさらなる充実をはかり、さらに受診件数増加をめざしていきたいと考えている。